

提携米通信

2010年7月号・黒瀬農舎発

天候一転・好天の6月



3月の種蒔き準備、4月の苗代管理、5月の田植え準備と田植え作業、この間ずっと寒い悪天候続きで困っていましたが、6月は一転して秋田にも好天がやって来ました。

苗作りから田植えまでの厳しい寒さで、稲は痛めつけられ成長は遅れて

いましたが、6月に入って毎日毎日の好天で、イネはだいぶ回復してくれました。

農薬消毒しない我が家の場合は、ポプラ並木沿いの田圃がイネミズゾウムシの被害を受けるため、上の写真のように、畦道をバーナーで焼きます。

本来ならこの作業は、田植え直前までに終える必要があるのですが、今年は寒くて雨が多く、この作業が出来なかったことと、気温が低い年は、虫の発生が少ないため必要がないと判断していたのですが、6月に入り急に天候が好転したところ、てきめんに、虫も大発生。急いで作業にかかった訳です。

このイネミズゾウムシは、40年ほど前にアメリカからの輸入牧草に潜入して密航した害虫で、ポプラ並木の元で越冬した成虫が、アリのように這いながら田植えした田圃に進入して、稲の葉っぱを食べます。

外来昆虫のため天敵が少なく、1本の稲に10数匹も群がり、葉っぱを食べ尽くすほど激発しますが、農薬を散布すれば、簡単に死滅し、葉っぱが無くなった稲も、数日で新しい芽が伸び回復します。

でも、農薬を使わない栽培では、進入した成虫は、葉を食べ尽くすだけでなく、稲の株元に卵を産み、7月には、この卵がふ化して生まれた幼虫が、稲の根を丸坊主に食害し、ひどい場合は田圃全面を壊滅状態にする時もある厄介な害虫です。

このために、バーナーを使うなどの初期対策が大切なのです。

これから、暑い時期に入ります。どうぞお身体に気を付けてお過ごし下さい。

提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・喜多

TEL 0185-45-3088 FAX 0185-45-2887



☆これから虫・カビの時期に入ります。お米が余った方は、遠慮なく減量やパスのお電話をお願いします。

E-mail : akita@kurose.com <http://www.kurose.com>

草取り奮闘中

6月7日は、草取り作業の本番です。

田植えを終えて気温が上がると、2、3日で雑草は芽を切ります。

その雑草が3ミリ程度の針の先ほどの小さい時期までに除草機を掛けると、株際で発芽を始めた雑草にも、除草機が跳ねた泥が被り、その大半を退治することができます。

しかし、田植え後直ぐに除



草機を掛けると雑草には効果的でも、イネを痛めます。逆に、遅れると、イネは痛みませんが、株間の雑草がまったく退治できず、手取り作業となってしまいます。

上の写真は、今年5月26日に植えた田圃の第1回目の除草機掛け作業で6月7日に写したスナップです。第1回目の除草機掛けは、これよりも5、6日早く行うのが理想ですが、今年は悪天候で、苗の質も悪く、また、活着も遅れたため、遅くなったのです。その後5日から1週間間隔で、すでに4回の除草機掛けを行いました。

田植えを終えれば、一日も早く活着するように、草の発生を一日でも半日でも遅らせるように……。草対策は、数日の作業遅れが致命傷。気が許せない作業です。

丈夫・健康・力強い苗を育てること、丁寧な代かきで活着促進と雑草発生の抑制、深水管理等々緻密な管理に集中するより他決定打はありません。雑草は、その後も7月



始めまで次々に発芽するのでこの時期は草との戦いに明け暮れです。

左のスナップは、春先から我が家の田圃に通い詰めている産業機械の開発者が試作してきた除草機の部品を試している様子です。

我が家では、今までに何種類もの除草機を購入しましたが、そして、改良や手作りを繰り返していますが、どれも成功しません。

残った株間の雑草は、手作業で取るより他に方法はなく、下の写真のように今年も6月20日からパートの女性が毎日十数人応援に来てくれています。

毎年毎年「この方法こそ!」「今度改良した、この除草機こそ!」と草対策に挑戦しますが、まだ未完。結局大勢のパートの女性の応援でしのいで、そして「来年こそ!」とまたファイトを燃やしているのが現実です。



今年も六月二十日から
手取り除草を始めまし
た。毎日十人余りのパ
ートさんが応援してくれ
ています。